

2019年11月14日

2020年3月期第2四半期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

1. 19年度上期業績

- 各事業とも中国市場低迷等の影響を受け、前年同期比減収
- 国内の自動車既存品は底固く推移、二次電池用工場は順調に立ち上がり供給開始
- 原価低減及び経費削減を進め、収益性は期初予想比良化

2. 19年度通期業績予想

- 継続する中国市場の低迷に鑑み通期予想を修正
- 将来に向けた設備投資は継続
- 配当は期初予定通りの1株当たり8円を予定

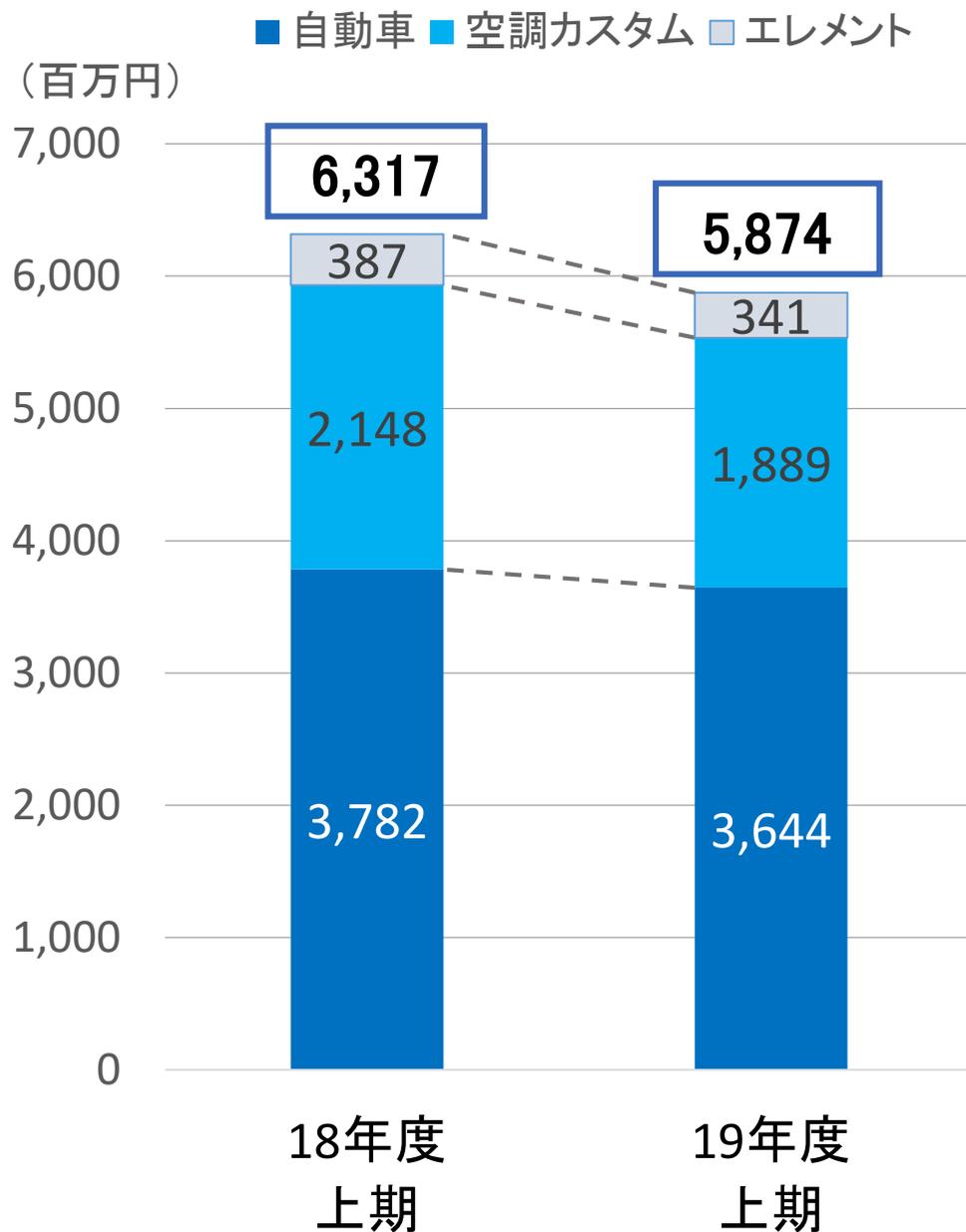
3. 中期事業計画の進捗

- 受注済み電動化領域の供給が本格化
- 主要取引先向けの二次電池用新規受注を複数成約
- 5G用エレメントは光通信需要の拡大に伴い、売上はV字回復し大幅増加の見込み

単位:百万円

	18年度 上期		19年度上期					
	実績	%	期初 予想	%	実績	%	前年 同期比	期初 予想比
売上高	6,317	—	6,293	—	5,874	—	△7.0%	△6.7%
営業利益	401	6.4%	257	4.1%	320	5.5%	△20.2%	+24.5%
経常利益	475	7.5%	228	3.6%	277	4.7%	△41.5%	+21.5%
四半期 純利益	325	5.2%	165	2.6%	210	3.6%	△35.5%	+27.3%

19年度上期事業別売上高



事業	前年同期比 (百万円)	増減率	
全体	△442	△7.0%	各事業とも中国市場低迷の影響を受けて減少
Element	△45	△11.7%	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車、家電用既存品が中国市場低迷により減 ●光通信用は需要回復(+72%)
空調カスタム	△259	△12.1%	<ul style="list-style-type: none"> ●ASEAN向け空調用が好調 ●中国向け空調用が減 ●工作機市場の低迷により減
自動車	△138	△3.7%	<ul style="list-style-type: none"> ●既存品は堅調に推移 ●電動化領域は増加(+28%)も、中国の補助金低減で中国向け売上が減

19年度上期エリア別売上高

- 日本は自動車事業は安定、天候不順による空調販売の減少等で微減
- 米中貿易摩擦及び中国市場の低迷により中国販売が減少
- ASEAN向けは好調な空調販売により増加

(単位:百万円)

エリア	19年度上期 売上高	エリア別 構成比	前年同期比	増減率
日本	3,432	58.4%	△ 191	△ 5.3%
中国	881	15.0%	△ 239	△ 21.3%
ASEAN	865	14.7%	+ 42	+ 5.1%
その他	696	11.9%	△ 55	△ 7.3%
合計	5,874	100.0%	△ 443	△ 7.0%

19年度上期貸借対照表

- 地産地消を目的とした生産移管及びリスク対応のための在庫増加
- 中計達成に向けた設備投資の資金借入と海外子会社へのIFRS適用により固定資産及び有利子負債が増加
- 上記要因により自己資本比率は24.0%（19年3月末比△0.3ポイント）

◇資産の部

	19年3月	19年9月	増減
流動資産	6,192	6,112	△79
現金預金	1,448	1,616	168
売上債権	2,493	2,065	△428
棚卸資産	2,123	2,321	197
その他	127	109	△17
固定資産	2,735	2,981	245
有形固定資産	2,393	2,606	212
無形固定資産	60	97	37
投資その他	280	276	△3
資産合計	8,928	9,093	165

◇負債・純資産の部

（単位：百万円）

	19年3月	19年9月	増減
流動負債	3,169	3,148	△20
仕入債務	1,244	1,269	24
有利子負債	942	1,113	170
その他	981	765	△216
固定負債	3,558	3,728	169
有利子負債	2,737	2,977	239
その他	821	751	△70
負債合計	6,727	6,877	149
純資産合計	2,200	2,216	16
株主資本	1,957	2,100	143
その他	242	115	△126
負債・純資産合計	8,928	9,093	165

19年度通期業績見込を修正

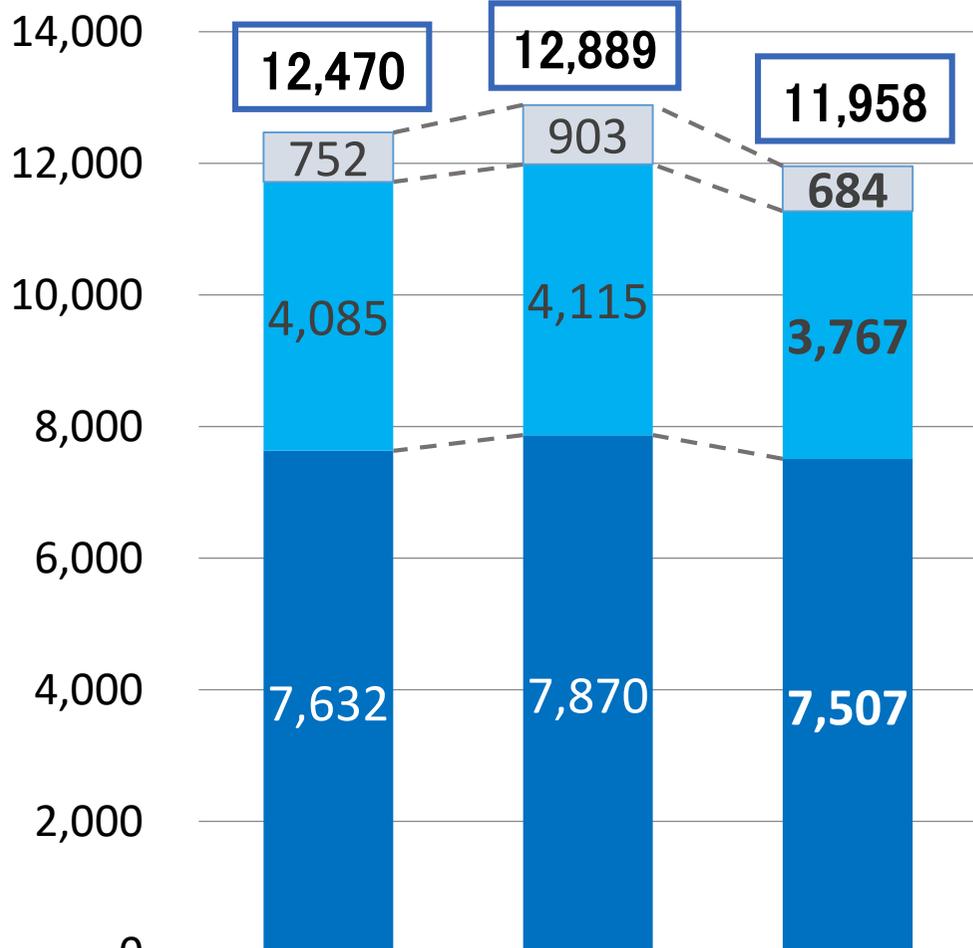
単位:百万円

	18年度通期		19年度通期見込み					
	実績	%	期初 予想	%	修正	%	前期比	期初 予想比
売上高	12,470	—	12,889	—	11,958	—	△4.1%	△7.2%
営業利益	735	5.9%	641	5.0%	535	4.5%	△27.3%	△16.6%
経常利益	752	6.0%	602	4.7%	478	4.0%	△36.4%	△20.6%
当期純利益	560	4.5%	429	3.3%	354	3.0%	△36.9%	△17.5%

19年度通期事業別売上高予想

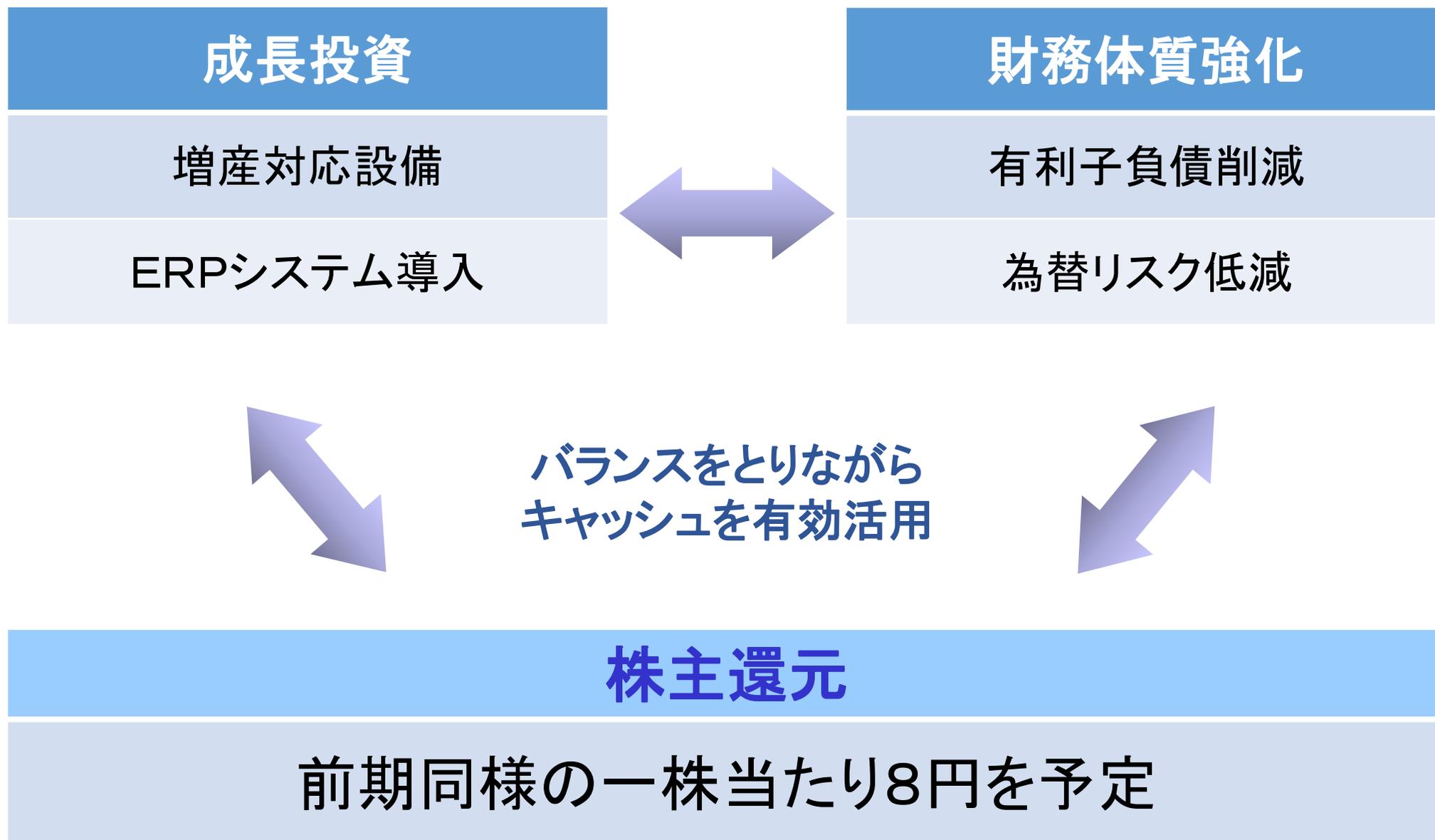
■ 自動車 ■ 空調カスタム ■ エlement

(百万円)



18年度実績 19年度予想 (期初) 19年度予想 (修正)

事業	前年比 (百万円)	増減率	
全体	△512	△4.1%	中国市場低迷による影響は継続する見通し
Element	△68	△9.0%	<ul style="list-style-type: none"> ●中国向け既存品は引き続き減 ●光通信用は売上拡大(+150%)
空調カスタム	△318	△7.8%	●中国向け空調、工作機市場の復調は見込めず
自動車	△125	△1.6%	<ul style="list-style-type: none"> ●国内既存品は増産予定 ●電動化領域の新規立ち上げと量産開始



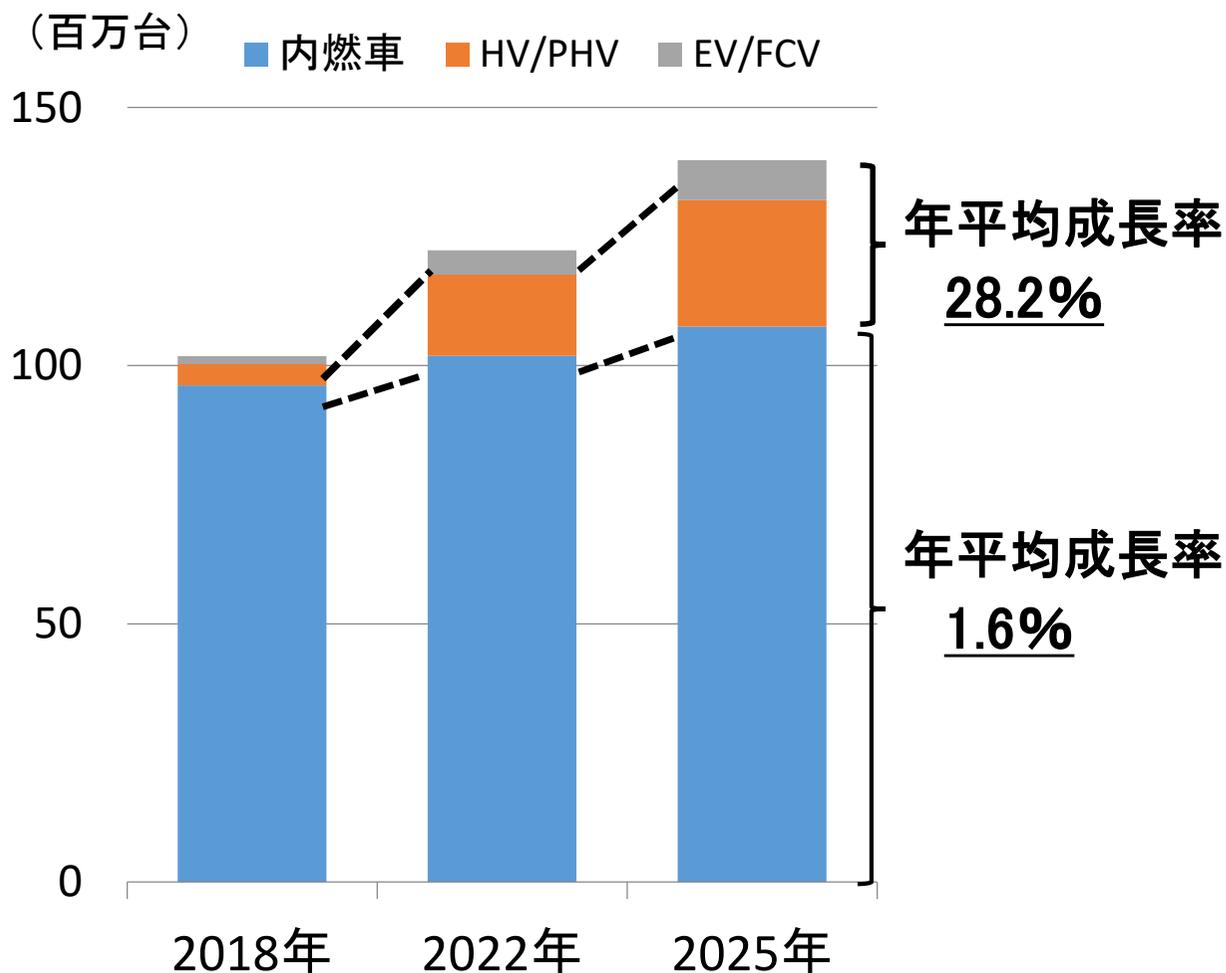
(単位:百万円)

	18年度 実績	19年度 修正予想	20年度 計画
売上高	12,470	11,958	14,000
営業利益率	5.9%	4.5%	8.0%
自己資本比率	24.3%	—	30%

経営戦略		進捗状況
事業 三本柱	◆ 自動車	<ul style="list-style-type: none"> ・既存品の需要は底固く、安定的に成長する見込み ・電動化領域の売上は大きく伸長の見込み ・21年度以降も二次電池用は引合継続、新規案件も複数成約
	◆ 空調カスタム	<ul style="list-style-type: none"> ・VE品提案によるシェアアップに注力 ・コスト競争力向上により中国・東南アジア・欧州での引合増加
	◆ エlement	<ul style="list-style-type: none"> ・5Gでサーミスタ需要が拡大、光通信関連の売上が大幅に増加
生産・ 技術力 強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 供給体制の確立 ◆ ニーズを捉えた技術開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・素子供給能力増強のための十和田新工場の稼働 ・増産に向けた二次電池用工場の整備完了 ・二次電池用のコア仕様共通化による製品競争力向上
経営管 理体制 確立	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 管理の仕組改善 ◆ 人材力強化 ◆ システム導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・生販管理体制の更なる強化 ・事業拡大に向けた継続的な人材採用、教育の実行 ・ERPシステムの稼働開始

今後、電動車市場は大きく成長の見込み

自動車市場規模予測
(動力タイプ別生産台数)



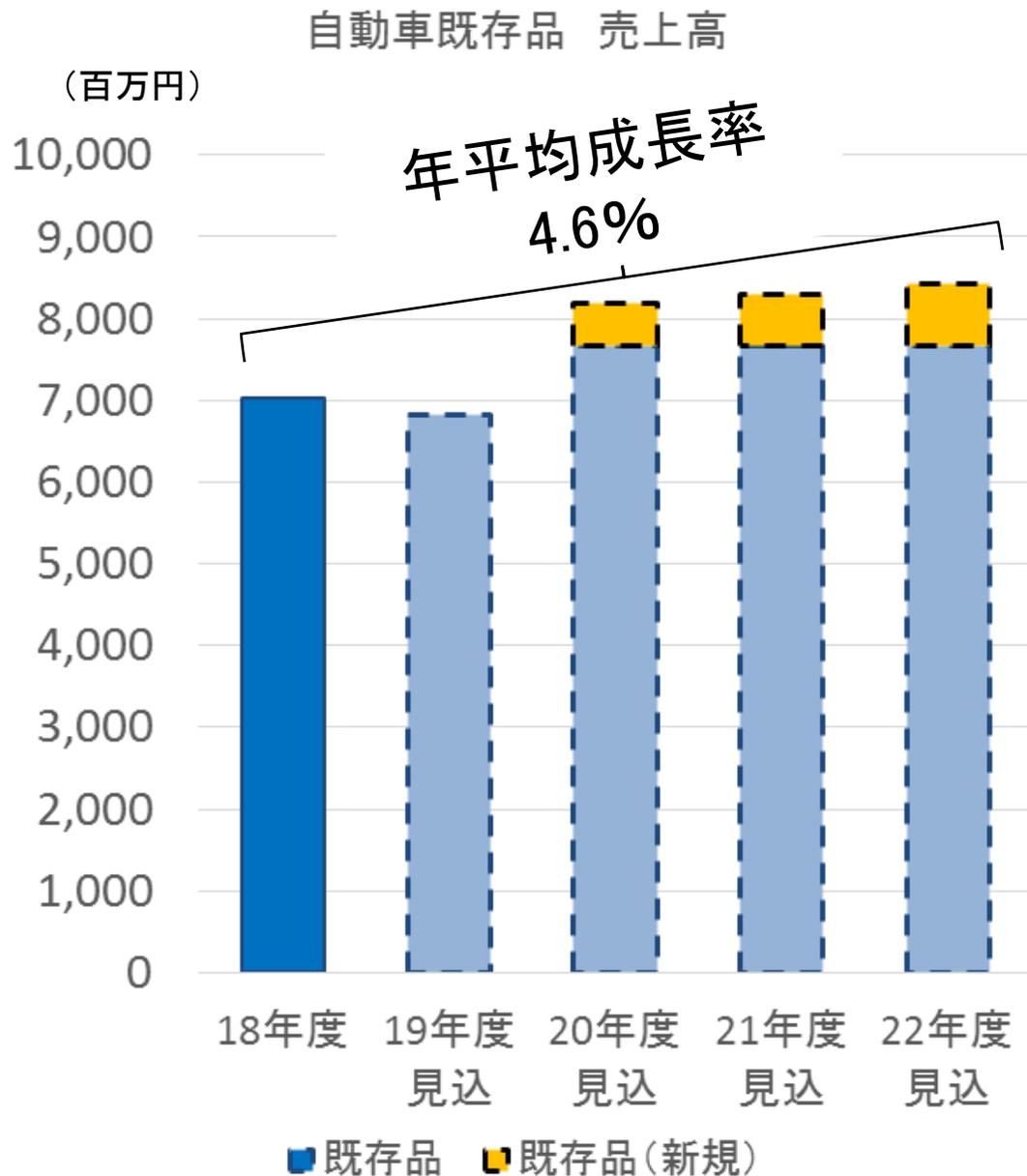
電動化でサーミスタ搭載数が倍増

動力タイプ別サーミスタ搭載数

		搭載数 (個/台)	カー エアコン	エンジン	電池/ モーター	ヒート ポンプ
電動車	EV/ FCV	<u>20~25</u>	○	—	○	○
	HV/ PHV	<u>15~30</u>	○	○	○	○
内燃車		<u>10~15</u>	○	○	—	—

↑

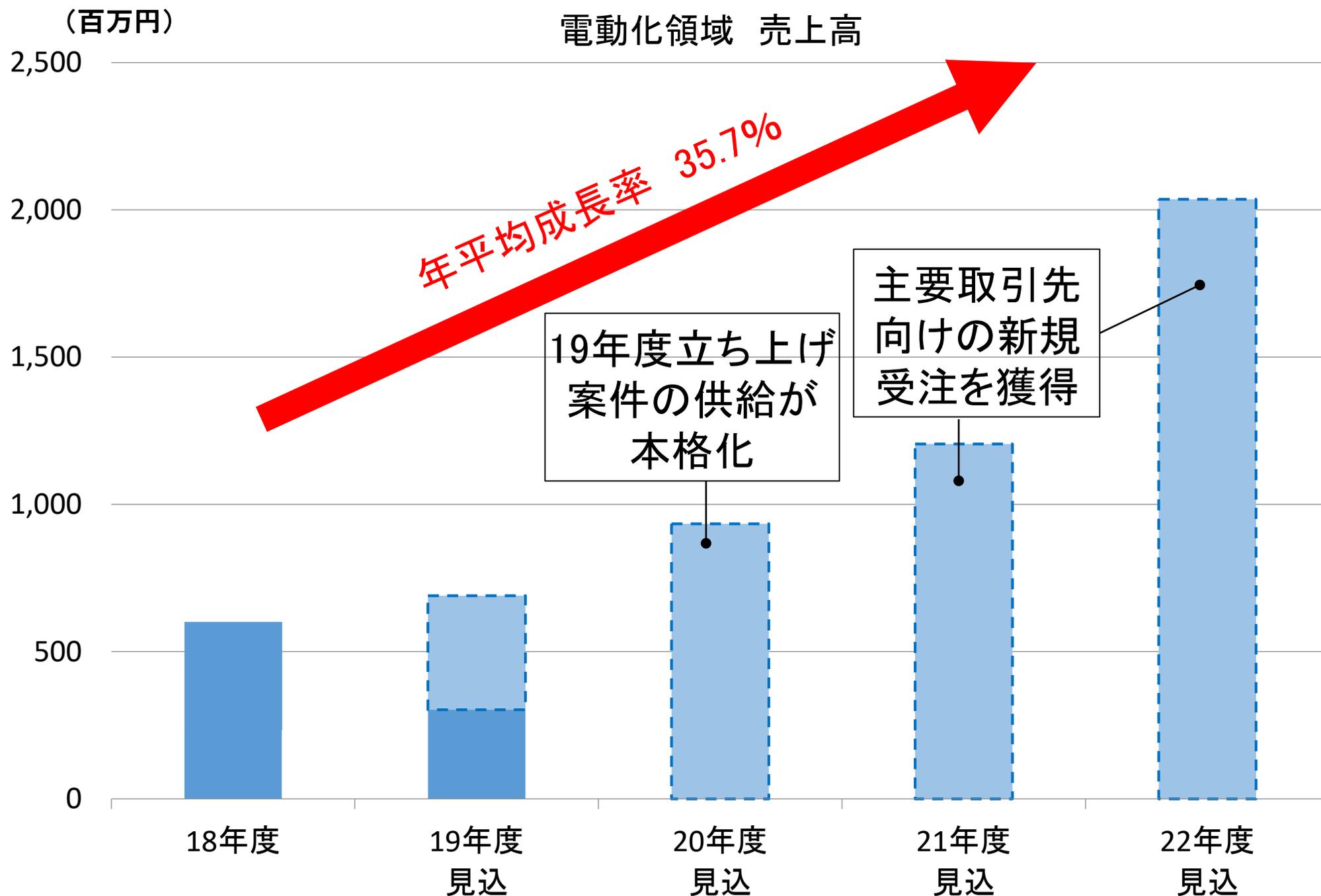
* 出所: 2019年3月富士キメラ総研資料及び当社試算



既存品はモデルチェンジに合わせて新規受注を継続して獲得

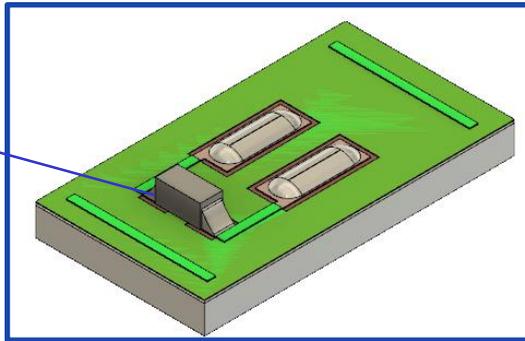
- エンジン水温センサ等
国内主要顧客向け受注が増加、
20年度増産ライン導入を予定
- カーエアコン用
国内、欧米を中心にグローバル
の需要増が続く

電動化領域の売上は大きく成長する見込み



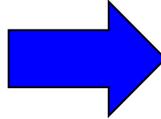
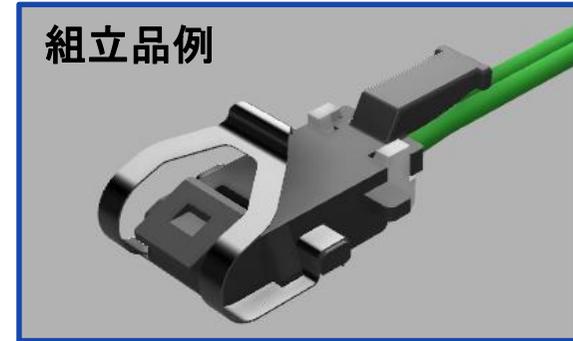
コア共通仕様部品

サーミスタ素子



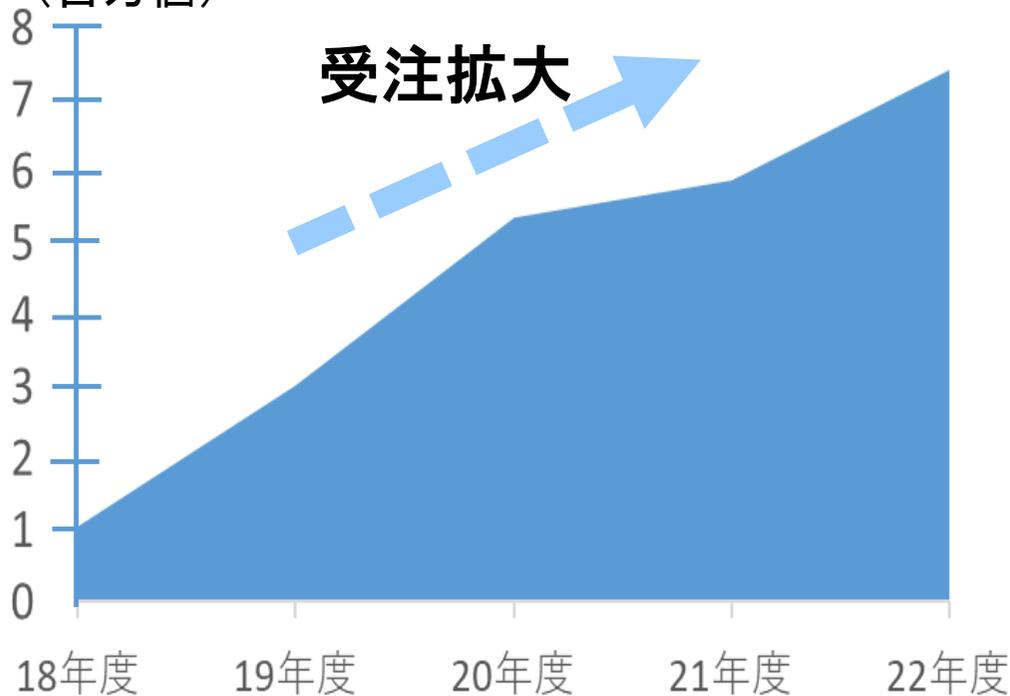
各顧客向け製品

組立品例



二次電池用センサ生産数量予測

(百万個)



二次電池工場の整備は完了



「メトロコアネットワーク」

- 大陸や国、大都市間を繋ぐ通信網



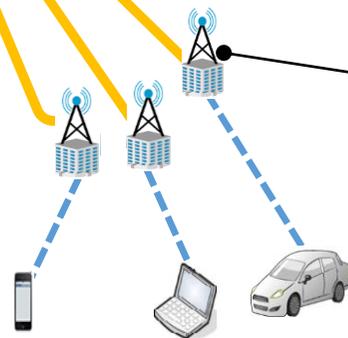
「モバイルバックホール」

- 都市内を繋ぐ通信網

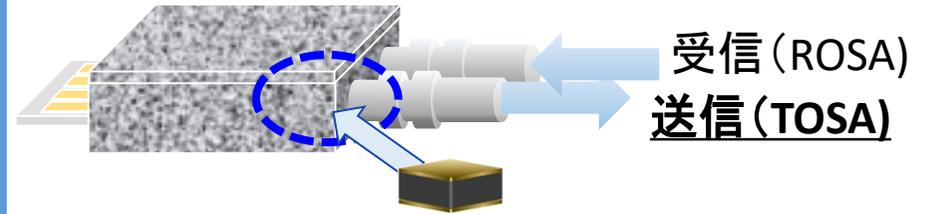


「モバイルフロントホール」

- 末端端末に近い通信網
- 「基地局」で各端末と繋がる



光ランシーバ（TRX）を設置



受信 (ROSA)
送信 (TOSA)

サーミスタで送信光波長を安定

中継局

- 既存設備の入れ替え需要
- 2020～2025年 推定2.8億台*

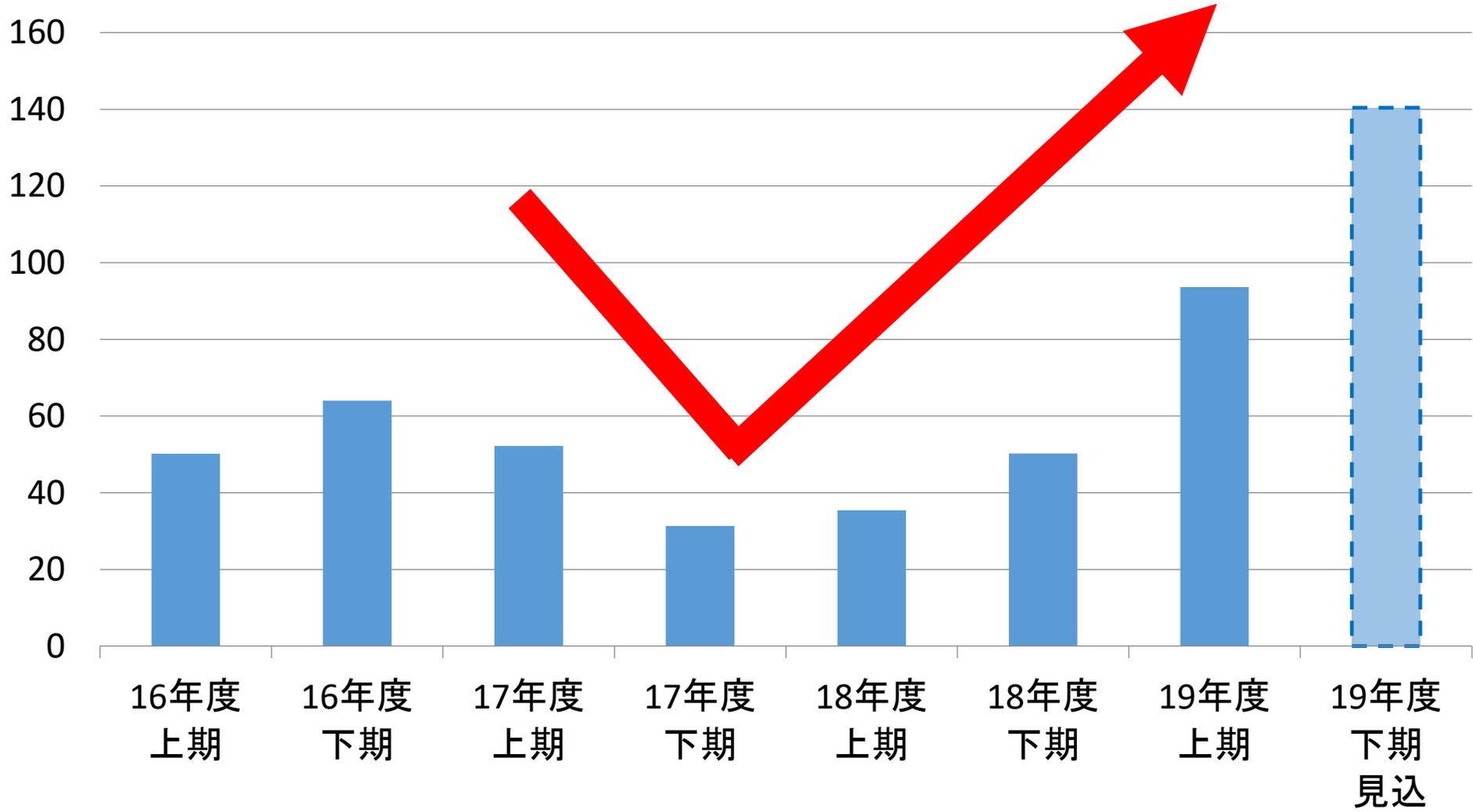
基地局

- 基地局の増設需要
- 2020～2030年 推定2～3億台*

* 出所: 2019年8月富士キメラ総研資料及び顧客聞き取り情報

光通信用 売上高

(百万円)



注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>